

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和2年6月30日

計画の名称	1 頻発する自然災害に対する安全・安心の確保																										
計画の期間	平成25年度～平成29年度(5年間)			交付対象	兵庫県																						
計画の目標	海岸侵食や高潮による浸水・越波被害や、大規模地震の発生に伴う津波等による災害を考慮して、現況の安全度を確実に保ちながら、海岸の利用や環境にも配慮しつつ災害を未然に防止する。																										
計画の成果目標(定量的指標)	海岸侵食や高潮により被害を受ける面積を101.0ha(H25)から0ha(H29)に減少。																										
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値 (H25当初)</th> <th>中間目標値 (H27末)</th> <th>最終目標値 (H29末)</th> </tr> <tr> <td>① 海岸侵食や高潮の被害を受ける面積</td> <td>101.0ha</td> <td>-</td> <td>0.0ha</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										定量的指標の現況値及び目標値			備考	当初現況値 (H25当初)	中間目標値 (H27末)	最終目標値 (H29末)	① 海岸侵食や高潮の被害を受ける面積	101.0ha	-	0.0ha		③				
	定量的指標の現況値及び目標値			備考																							
	当初現況値 (H25当初)	中間目標値 (H27末)	最終目標値 (H29末)																								
① 海岸侵食や高潮の被害を受ける面積	101.0ha	-	0.0ha																								
③																											
全体事業費	合計 (A+B+C)	534百万円	A	534百万円	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)	0.0%																	

事後評価(中間評価)

○事後評価(中間評価)の実施体制、実施時期	
事後評価(中間評価)の実施体制	事後評価(中間評価)の実施時期
兵庫県県土整備部で評価	令和2年6月
	公表の方法
	兵庫県ホームページ

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																		
A 海岸事業																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
											H25	H26	H27	H28	H29			
1-A1-1	海岸	一般	兵庫県	直接	兵庫県	海岸環境	水国	田之代海岸	海岸環境整備事業	護岸工、養浜	淡路市						414	
1-A1-28	海岸	一般	兵庫県	直接	兵庫県	海岸環境	港湾	赤穂港海岸	海岸環境整備事業	養浜等	赤穂市						120	
											小計(海岸事業)		534					
B 関連社会資本整備事業																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考		
										H25	H26	H27	H28	H29				
											合計							
番号	一体的に実施することにより期待される効果												備考					
C 効果促進事業																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考		
										H25	H26	H27	H28	H29				

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		田之代海岸において、人ロリーフ等の整備により汀線が安定し、侵食の進行を防止した。また、養浜を行うことで砂浜の回復が図られた。			
II 定量的指標の達成状況	指標①（海岸侵食や高潮の被害を受ける面積）	最終目標値	0ha	目標値と実績値に差が出た要因	目標達成に必要な事業費を確保することができず、一部事業を次期計画(H30～R4)にて継続実施することとしたため。(R2年事業完了予定)
		最終実績値	80ha		
		最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値			
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		<p>(田之代海岸)</p> <p>「護岸+養浜+人工リーフ」の組み合わせによる面的防護により、国道28号に打ち上がる越波+飛沫被害が防止できた。レクリエーション機能の向上として、平成20年度に海水浴場を開設して以降、海水浴場利用者数は順調に増加している。海生生物を観察しやすい礫浜を整備したことにより、満潮・干潮での磯場の変化と海生生物との関わりを学習できる場が創出された。また養浜整備箇所では地元児童が参加する地引網体験を行うなど、様々な活動の場として利用され、地元地域には自然環境の保全に対する意識が根付いてきている。</p>			
3. 特記事項（今後の方針等）					
赤穂港海岸においては、計画目標の達成に向けて、次期社会資本総合計画(H30～R4)において継続実施し、事業効果の発現に努める。(R2年事業完了予定)					

(参考様式3) 参考図面 (社会資本整備総合交付金)

